

近代日本における軍と教育 — 森文政期を中心とする中間報告 —

寺崎昌男(財団法人野間教育研究所)
木下秀明(日本大学)
佐藤秀夫(国立教育研究所)
中内敏夫(石巻の水女子大学)
平原春好(神戸大学)

(1)

野間教育研究所では、国内外の研究者の協力のもとに、1971年夏から主題のようパターマにもとづいた共同研究を進めている。

この研究のねらいは、従来の教育史研究では必ずしも前面にあらわれてきた「軍」と日本近代公教育の関連を史的に追究することを通じて、その視点から日本近代公教育の質を問い直してみることにある。その課題をとくに学校教育に限定しつつ、時期的には明治初期から大正を経て昭和初期まであたりを対象として追究したいと考えている。さしあたり、

- (1) 学校教育に対して、軍ほどのような要求を提出してきたか。
- (2) その要求に対応して、公教育とくに学校教育指導者あるいは教育政策主体は、軍隊内の教育訓練の組織や方法、内容の中から、何とが選択してきたか。
- (3) 軍による公教育への要求、軍からの模倣という二つの営為に規定されるから、学校教育の制度、内容、方法、訓育の形態内容、生徒統制方式などは、具体的にどのような実態上の変化をとりしてきたか。

という三つの視点を設定し、明治前半期、明治後期、大正期、昭和初期についてこれらの視点そのものがおのおのどれ程の有効性をもつかを吟味しつつ研究を進めていくつもりである。小・中学校、中学校、師範学校、高等学校、専門学校といった学校の制度的種別と教育水準に即して以上の三点を考察し、またとくに教育関係審議会における論議、軍と国民教育の関連をめぐる軍人、政治家、思想家の論議や意見の分析を行

ない。あわせて軍隊内教育の復讐と発展などに ついても学習しながら、総合的な考察を行おうと考えるのである。

(2)

今回の報告は、以上のようは研究のごく第一段階のものであり、その中間報告である。明治前半期において、軍事的な要請を教育的目的視においてとらえかえし、軍隊内の教育、訓練の組織と方法を、積極的に模倣した森有礼の文政期において、軍と教育の関連を確かめておこうとするものである。

森文政期前、明治10年代のはじめから、陸軍はその教育訓練方式をフランス型の理論中心・文献的方法からプロイセン型の実技中心・技能訓練の方法に改めた。これはもちろん、憲法体制、軍制体制等のドイツ化政策の一環であったが、このようは軍隊内教育の転換に伴って、明治17年から「歩兵操練」の導入といった施策が進行し、徴兵令の改正による常備兵の確保、徴兵忌避者の根絶という軍事目的と教育目的の結合がはかられる。

このようは先行実態という了時点まで、森が登場したが、森における軍と教育の関連のさせ方ほどのようはあつたか、それはどのような実態に迎えられるかについて、3人の代表者が試論的に考察を述べることにしよう。

- 1. 研究の課題 (寺崎)
- 2. 師範学校における訓育の展開 (佐藤)
- 3. 高等中学校の兵式体操、訓育方針と禁自治制 (寺崎)
- 4. 強兵主義と学校体育 (木下秀明)